

少子化が著しい本町でも、同様な課題である少子化対策に対し、抜本的な施策が求められるなか、三笠市を参考に検討したい。

株主制度でまちづくり

～東川町

北海道のほぼ中央に位置し、大雪山国立公園区域が、町の一部にある。

「地理・自然・社会的にすばらしい条件を有する東川町が自立化の道を歩まないで、一体どこが自立できるのか」という声が多く、平成15年に合併しない道を選択した。

ふるさと納税を利用した「東川株主制度（1口10000円）」は、職員の発想から生まれ、東川町を応援する人が町へ投資（寄付）して株主になる。

株主には株主証が配られ、町外の人は特別町民に認定される。10口以上で町の特産品や町



あいさつする東川町長

内施設の利用料割引など、特典が受けられる。これまでの実績は、2067人で7056万円にもものぼる。

本町でも、ふるさと納税の募集のためのさまざまなアイデアを考え、積極的に取り組む姿勢が大切だと感じた。

動物園の取り組み

～旭川市

お金をかけず、市職員の発想やアイデアで動物園の魅力を

訴え、東京上野動物園の入場者数を上回ったという伝説の動物園、その秘密を探った。

旭山動物園は、従業員65人で、入園者数は平成15年で82万人、ピークの平成19年で300万人であったが、近年は160万人前後である。来園者の減少は、ブームが過ぎ、ほかの動物園が力を入れ競争がきびしくなったためである。

昨年より冬季に「雪明りの動物園」として、開園時間を延長



動物園再建の説明を受ける

し、冬の夜の静けさや動物たちの息づかいを感じてもらおう催しも実施している。

ゆっくり落ち着いて見学できる環境が実現される現在の160万人前後の来園者数は、ピーク時から減少したが、サービスの面からはマイナスではないとのことであった。

平成23年度は3800万円の黒字決算である。

事業の成功に向けて取り組む職員のアイデアと行動力、それを推進した行政の決断力などを参考にし、本町議会にも生かしたい。

まとめ

今回の行政視察では、各地域の状況にあった特徴ある施策が講じられている。首長の強いリーダーシップと職員の事業への発想と熱意ある創意工夫そして行動力、それに対する議会の理解ある姿勢を強く感じた視察であった。これからの議会活動に生かしたい。（視察報告書は、議会ホームページに掲載しています）